【 まちの将来像５ 】

都市活力がみなぎる便利で快適なまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-1	地域経済を支える産業をまもりそだてる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	本市の農林業は、都市近郊立地の特性をいかし、都市と農村の交流を基軸とした地産地消の取組や、適切な森林整備を促進するとともに、地域ぐるみでの営農や市民、企業等の新たな担い手を育成します。 また、商店街が便利で楽しみのある場所として、買い物客や地域住民で賑わい、市内企業が安定的に事業を継続し、成長を遂げるなど、活力あふれるまちづくりを進めていきます。	

		部　名	補職名・課名	氏　名
4 評価者等	評価者（部長級）	産業環境部	部　長	吉田　誠
	施策主担当課	産業環境部	商工労政課	―
	施策関係課	農とみどり推進課、農業委員会事務局		

5 施策内の取組（★：重点プラン該当取組）	5-1-1	★農林業の振興
	5-1-2	★都市と農村の交流活動等による活性化
	5-1-3	★商業の活性化
	5-1-4	企業活動への支援

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2 評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）

平成29年度は、農の振興については、銭原地区で集落営農組織の費用負担軽減のため、農業用機械の貸し付けを行ったほか、市・農業委員会・府・農地中間管理機構の4者で定期的な情報交換を実施し、農地中間管理事業を活用して農地23筆約2haで16名の新たな担い手を確保、農業経営サポートとして新規就農者1名に対し国の給付金を支給、市民等を対象とした農業体験ファームを実施し、10名の受講者がありました。また、地元から整備要望があった水路や取水堰等を改修するため、国・府の補助金を活用し設計業務を実施しました。

農業経営の安定化を図るため、有害獣対策としてイノシシ等123頭の捕獲及び防止柵約1.4kmの設置を行い被害防止に努めました。エコ農産物については、約10haの圃場で栽培支援を行いました。また、学校給食用に野菜を生産してもらい、直売所を通じて5種類の地場産野菜の供給を行いました。

林の振興については、林業者団体が行う森林整備作業に対して支援を行いました。

都市と農村の交流については、農業祭の開催、直売所や市内体験農園が行うイベント等の情報を市HP等で発信を行いました。また、新たな特産品として考えているれんげ米栽培約6.2haに対する補助支援を行いました。さらに、市内6箇所の市民農園の管理運営を行い、農とふれあう場の提供を行うとともに、今後の市民農園運営方法について、指定管理制度での運営の可能性を探るため、企業等にヒアリングを行いました。

北辰中学校跡地活用については、暫定的にオートキャンプ場を開設し、利用者から跡地の検討材料や北部地域へのニーズの把握に努めました。

商業の活性化については、申請件数が伸び悩んでいた産業活性化プロジェクト促進事業の申請要件を改正したところ、事業者同士の交流を促進する取組が1件、新たに申請されました。また、農商連携の促進に向け、農業者と飲食店経営者等の交流会を実施し、新たなつながりが創出されました。

企業活動への支援については、企業訪問等を通じて各種支援施策の周知を行ったことから、前年度を上回る88件の利活用につながりました。

以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。

H29年度末現在の施策の主な課題

課題①	高齢化等による担い手不足や農業用機械購入及び維持費の負担増など、多くの課題があります。また、安定的な売り先の確保を図る必要もあります。森林所有者の高齢化や木材価格の低下で放置された人工林が増加し、木材生産機能が低下しています。
課題②	市直営の市民農園は、民間の力を借りることで利用者への農の魅力発信や運営の効率化を図る必要があります。北辰中学校跡地活用の今後の方向性を検討・決定する必要があります。新たな特産品として推進していますれんげ米栽培は、栽培場所が点在しており、景観作物としての効果を発揮できていません。
課題③	事業主の高齢化等により、店舗の魅力の創造や発信、商店街活動等が活発に行われていないことから、エリアの魅力が低下している状況も見受けられます。また、農商連携の取組については、事業者の交流は促進されていますが、具体的なマッチング件数は少ない状況です。
課題④	大企業の工場等の再編・統合の検討においては、本社裁量で方針が決定されるため、企業立地促進奨励金が企業留置策や雇用増加策としては機能していないことから、見直しを検討する必要があります。
課題⑤	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-1	地域経済を支える産業をまもりそだてる

3　施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-1-1	★農林業の振興				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	農とみどり推進課	課長名	浦野　芳博
3	関係課	農業委員会事務局					
4	目　標 （前期基本計画より）	農業生産施設や農村生活環境が整備され、さまざまな担い手により、農業が営まれ、安全・安心な農作物が市民に供給されています。また、適切な森林整備が進んでいます。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる （北部地域の活性化）		内容	農林業の新たな担い手の養成、 遊休農地・放置森林とのマッチングの推進		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	農の振興については、銭原地区において集落営農組織の費用負担軽減のため、農業用機械の貸し付けを行ったほか、市・農業委員会・府・農地中間管理機構の4者で定期的な情報交換の実施、農地中間管理事業を活用し、農地23筆約2haにおいて16名の新たな担い手の確保、農業経営サポートとして新規就農者1名に対し国の給付金の支給、市民等を対象とした農業体験ファームを実施し、10名の受講者がありました。地元から整備要望があった水路や取水堰等を改修するため、国・府の補助金を活用し設計業務を実施しました。有害獣対策としては、イノシシ等123頭の捕獲及び防止柵約1.4kmの設置を行い被害防止に努めました。エコ農産物については、栽培を推進し、約10haの圃場で栽培支援を行いました。また、学校給食用に野菜を生産してもらい、直売所を通じて5種類の地場産野菜の供給を行いました.林の振興については、林業者団体が行う森林整備作業に対して支援を行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
都市住民とのマッチングを行った農地面積	a	↗	54	75	100（各年度）
有害獣による農地（水稲）被害面積	ha	↘	1	1	1（各年度）
認定農業者数（国・大阪版）	件	↗	136	149	150（H31）

1	取　組	5-1-2	★都市と農村の交流活動等による活性化				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	農とみどり推進課	課長名	浦野　芳博
3	関係課	商工労政課					
4	目　標 （前期基本計画より）	農業に関連したイベントが市内各所で行われ、市民と農業者の交流が活発化し、地域が活性化しています。 市民が市民農園での野菜作りや体験農園での活動を楽しんでいます。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる （北部地域の活性化） ②魅力と活力のあふれるまちをつくる （雇用機会の拡大と経済活性化）		内容	農業の6次産業化の支援、 特産品やブランドづくり、アンテナショップなどの支援、 学校給食などと連携した地産地消の推進		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	農業祭の開催、直売所や市内体験農園が行うイベント等の情報を市HP等にて発信を行いました。新たな特産品として考えているれんげ米栽培約6.2haに対する補助支援を行いました。北辰中学校跡地活用については、暫定的にオートキャンプ場を開設し、利用者から跡地の検討材料や北部地域へのニーズの把握に努めました。市内6箇所の市民農園の管理運営を行い、農とふれあう場の提供を行いました。また、今後の市民農園運営方法について、指定管理制度での運営の可能性を探るため、企業等にヒアリングを行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
農業祭来場者数	人	↗	40,000	35,000	50,000（各年度）
農林産物直売所の利用者数	人	↗	101,500	96,881	120,000（H31）

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-1	地域経済を支える産業をまもりそだてる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-1-3	★商業の活性化				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永　嘉朗
3	関係課	農とみどり推進課					
4	目　標（前期基本計画より）	消費者ニーズや生活スタイルの変化に伴い、利便性の高い新たな大型ショッピングセンターに買い物客が流れ、従来の小売・卸売事業者の売上高が減少傾向にあります。また、まちを楽しめる機会の増加が求められています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（まちなか空間の活性化）		内容	空き店舗等の活用促進		

6 H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	市内の事業者や商店街の活性化に向けた取組を支援しました。 申請件数が伸び悩んでいた産業活性化プロジェクト促進事業の申請要件を改正したところ、事業者同士の交流を促進する取組が1件、新たに申請されました。 農商連携の促進に向け、農業者と飲食店経営者等の交流会を実施し、新たなつながりが創出されました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
商店を対象とした経営・販売・集客等に関する支援件数（平成28年度新規事業）	件	↗	4	9	累計40（H32）
市が主催・共催・後援等を行った集客性・回遊性のある食に関するイベント数	件	↗	2	2	累計3（H32）
商店街の活性化や認知度向上に向けたイベント数	件	↗	0	1	累計3（H32）

1	取　組	5-1-4	企業活動への支援				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永　嘉朗
3	関係課						
4	目　標（前期基本計画より）	市内企業が操業を継続し、発展成長することにより、地域経済が発展しています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6 H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	企業訪問等を通じて市内企業へ本市や国・府などの各種支援制度を周知し、その利活用を促進することで、企業活動を支援しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
巡回訪問での制度周知による各種支援施策の利用件数	件	↗	78	88	100（H32）

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-1	地域経済を支える産業をまもりそだてる

４　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、１～３に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・「認定農業者数」はほぼ目標値を達成していること、「都市住民とのマッチングを行った農地面積」は順調に伸びていることから、農業振興の成果は上がっていると考えられる。 ・一方、「農業祭来場者数」「農林産物直売所の利用者数」は減少しており、「都市と農村の交流活動等による活性化 」には工夫が必要である。 ・商業活性化は、取組の成果は認められるものの、アウトカムとしての商業活性化がどのように達成されたのかが、見えにくい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-2	時代の変化を見通した新しい産業をつくり、そだてる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	特区制度や企業立地促進奨励金などの企業支援施策を活用し、バイオ・ライフサイエンス分野など成長産業の集積や幹線道路沿道等での物流施設など本市の地域特性をいかした企業立地を進めます。また、多様なビジネスの創出とともに、育成された人材がいきいきと活躍することで、活力がみなぎるまちづくりを進めていきます。	

4	評価者等		部　名	補職名・課名	氏　名
		評価者（部長級）	産業環境部	部　長	吉田　誠
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	―
		施策関係課	都市政策課、北部整備推進課		

5	施策内の取組（★：重点プラン該当取組）		
		5-2-1	★地域経済の成長を先導する事業者の創出・育成
		5-2-2	★幹線道路沿道での企業立地誘導
		5-2-3	★特区制度などを活用した企業立地

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2	評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	H29年度末現在の施策の主な課題	
	平成29年度は、産学連携の取組の活性化に向け、「産学連携交流サロン」を3回開催し、延べ54人の参加者がありました。前年度の延べ72人から減少しましたが、参加をきっかけに大学との事業連携に向けた具体的な検討に入った事業者もあります。また、産学連携に係る補助事業を活用された事業者は3件あり、得られた成果から実用化に向けての取組が引き続き進められています。 起業支援については、平成29年度の創業実現者数は88人と前年度の60人から増加しました。また、女性向け起業セミナーの入門編に加え、新たに実践編を開催したほか、学生を対象に、ビジネスプラン作成セミナーを2回開催し、延べ22人の参加者がありました。さらに、市内における創業を促進するため、創業促進事業補助制度の拡充に取り組みました。 幹線道路沿道での企業立地誘導については、本市南部地域の市街化調整区域の南目垣・東野々宮地区では、土地区画整理準備組合が検討を進めるまちづくりの取組を支援、業務代行予定者の選定が行われました。一方、平田・玉島・野々宮地区については、3地区での事業化検討を断念されたため、各地区での検討を進められており、野々宮地区は病院建設に向けた検討が進められておりますが、平田・玉島地区は検討・合意形成が進んでいない状態です。国道171号沿線の豊川・宿川原地区では、将来の地域のあり方について議論されています。 特区制度などを活用した企業立地については、彩都東部地区では先行エリアで成長産業等の企業集積を目指し、造成工事が進められています。残りのエリアにおいても、産業・業務系を中心としたまちづくりを目指すことや段階的に整備していくことで地権者の合意形成がなされ、区画整理事業実現に向け、地権者主体の取組が進められています。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。	課題①	起業支援について、具体的に起業を見据えている学生はかなり少ないことから、まずは起業への関心を高める取組が有効と考えられます。また、創業実現者数の目標達成に向けて、市内での創業志望者を増やすことが必要です。
		課題②	幹線道路沿道での企業立地等については、事業化への合意形成や進出事業の目処が立っていない地域もあります。
		課題③	東部地区残エリアにおける先行整備区域の地権者の合意形成や参画する民間事業者の確保など区画整理事業実施に向けた協議・調整が必要です。
		課題④	
		課題⑤	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-2	時代の変化を見通した新しい産業をつくり、そだてる

3　施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取　組	5-2-1	★地域経済の成長を先導する事業者の創出・育成				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永　嘉朗
3	関係課						
4	目　標 （前期基本計画より）	クリエイター―や研究者といった知識・技術を持った人材の活躍で、個性あふれる新しい事業が創出されています。また、事業者、大学、地元金融機関、行政や市民がそれぞれの強みをいかして取り組むことにより、地域産業の活性化が進んでいます。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる ②魅力と活力のあふれるまちをつくる（雇用機会の拡大と経済活性化）		内容	①コミュニティビジネスなど高齢者による地域活性化 ②大学との連携による人材育成や新たなビジネスチャレンジへの支援、空き店舗等を活用した起業などの支援		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ	「産学連携交流サロン」に参加した事業者が、大学との事業連携に向けた具体的な検討に入りました。また、平成28年度に実施した、女性向けの入門編起業セミナーを継続するとともに、新たに実践編を実施しました。学生への「起業」に触れる機会の提供として、ビジネスプラン作成セミナーを実施しました。さらに、市内における創業を促進するため、平成30年度に向けて創業促進事業補助制度の拡充に取り組みました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
産学連携スタートアップ支援事業を活用した事業の実用化数	件	↗	1	0	累計10(H28～H32)
創業支援ネットワーク等を活用した創業実現者数	人	↗	60	88	95（H32）
産業活性化プロジェクト促進事業を活用した高付加価値な製品・商品数	件	↗	2	2	累計5(H28～H32)

1	取　組	5-2-2	★幹線道路沿道での企業立地誘導				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課						
4	目　標 （前期基本計画より）	交通利便性など本市の地域特性を活かし、幹線道路沿道において、これからの時代にふさわしい物流などの企業立地が進んでいます。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（雇用機会の拡大と経済活性化）		内容	交通利便性など地域特性を活かした企業立地促進		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ	本市南部地域の広域幹線沿道の市街化調整区域において、南目垣・東野々宮地区については、土地区画整理準備組合が検討を進めるまちづくりの取組を支援、業務代行予定者を選定されました。 平田・玉島・野々宮地区については、3地区での事業化検討を断念され、各地区での検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められておりますが、平田・玉島地区は、検討・合意形成が進んでいない状態です。 また、国道171号沿線の豊川・宿川原地区については、将来の地域のあり方について、議論されています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-2	時代の変化を見通した新しい産業をつくり、そだてる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-2-3	★特区制度などを活用した企業立地				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永　嘉朗
3	関係課	北部整備推進課					
4	目　標 （前期基本計画より）	特区制度や企業立地促進奨励金などの支援施策により、バイオ関連や環境関連など成長産業の集積が進み、市内企業とのビジネスマッチングなどの経済効果が生まれ、地域経済の活性化が図られています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる （雇用機会の拡大と経済活性化）		内容	彩都等における成長産業等の集積促進や新たなまちづくり		

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	彩都東部地区については、先行エリアにおいて、成長産業等の企業集積を目指し、造成工事が進められています。また、残りのエリアにおいても、産業・業務系を中心としたまちづくりを目指すことや段階的に整備していくことで地権者の合意形成がなされ、区画整理事業実現に向け、地権者主体の取組が進められています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
研究施設、生産施設、物流施設等の新規立地件数	件	↗	5	2	累計10(H28～H32)

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・起業支援について、創業実現者数が増加するなど成果があがっているが、産学連携の取組には時間がかかっており、今後の展開に期待したい。 ・土地区画整理事業や彩都についても基盤整備に時間がかかるものであるが、企業誘致等今後の成果に期待したい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-3	就労支援と働きやすい職場づくりをすすめる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	働く意欲はあるが就労にあたり困難な要因を抱える人（就職困難者）や不安定な就労を余儀なくされている人の能力と希望に応じた就労を支援する施策に取り組みます。また、市内の事業所において、働く人々が安心して、いきいきと働くことができる職場づくりを促進する施策に取り組みます。	

4	評価者等		部　名	補職名・課名	氏　名
		評価者（部長級）	産業環境部	部　長	吉田　誠
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	―
		施策関係課	人権・男女共生課、相談支援課、生活福祉課、障害福祉課、こども政策課		

5	施策内の取組（★：重点プラン該当取組）		
		5-3-1	★就労の支援
		5-3-2	★働きやすい職場づくりの推進

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2	評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	H29年度末現在の施策の主な課題	
	就労の支援については、庁内関係課・関係機関が連携し、合同就職面接会や求職者の職業能力向上の支援等を行いました。合同就職面接会については、全参加事業所の人材確保にはつながりませんでしたが、開催時期変更による参加対象者の拡大等により、就職者数は、平成28年度の31人から41人に増加しました。職業能力の向上の支援については、介護職員初任者研修や医療事務基礎講座等の開催や再就職支援助成金制度の実施により、就職困難者の職業能力の向上を支援しました。また、庁内関係課や関係機関と情報共有を行いましたが、就職サポート事業における各課・機関と連携したケース検討会議の件数は、平成28年度の13件から7件に減少しました。 働きやすい職場づくりの推進については、市内で働く勤労者の健康で豊かな働き方の実現を図ることを目的に、働きやすい職場づくり推進事業所認定制度を創設し、事業の周知・啓発を行ったところ、2事業所の認定を行うことができました。また、さらに取組を推進するため、新たなインセンティブを検討しました。誰もが働きやすい活力ある地域づくりや働きやすい職場づくりの促進を図るため啓発セミナーを実施したところ、茨木市・高槻市・摂津市・吹田市・島本町が連携し開催している労働に関するセミナーでは参加者数が伸び悩みましたが、大阪府総合労働事務所、茨木労働基準協会と連携したセミナーでは定員を超える申込がありました。 以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。	課題①	市内中小企業等の人材確保の支援や、求職者の職業能力の向上を図る必要があります。
		課題②	各就職困難者の状況に応じた就労支援をすすめるため、庁内関係課や関係機関の連携が求められています。
		課題③	H29年度から働きやすい職場づくり推進事業所認定事業をスタートし2事業者の認定につながりましたが、さらに多くの事業所へ取組を促進する必要があります。
		課題④	労働環境の改善等の啓発を促進するため、各種セミナーの参加者数を増加させる必要があります。
		課題⑤	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-3	就労支援と働きやすい職場づくりをすすめる

3　施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-3-1	★就労の支援				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永　嘉朗
3	関係課	人権・男女共生課、こども政策課、生活福祉課、相談支援課、障害福祉課					
4	目　標（前期基本計画より）	若者、女性、障害者などが、その能力と希望に応じた就労を実現しています。 市民や学生の市内における就労と、市内中小企業等の人材確保が促進されています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる		内容	子育て世代（女性）の就労・創業支援		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	合同就職面接会の全参加事業所の人材確保にはつながりませんでしたが、開催時期変更による参加対象者の拡大等により、就職者数は、平成28年度の31人から41人に増加しました。介護職員初任者研修や医療事務基礎講座等の開催や再就職支援助成金制度の実施により、就職困難者の職業能力の向上を支援しました。庁内関係課や関係機関と情報共有を行いましたが、就職サポート事業における各課・機関と連携したケース検討会議の件数は、平成28年度の13件から7件に減少しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
就職サポート事業を利用して就職した人	人	↗	76	74	110(H32)

1	取　組	5-3-2	★働きやすい職場づくりの推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永　嘉朗
3	関係課						
4	目　標（前期基本計画より）	働く人々の権利が守られるとともに、雇用が安定し、安心していきいきと働いています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる		内容	働き方の選択肢を増やす取組、 子育て世代の雇用機会を増やす取組、 仕事と家庭生活が両立できる職場づくりの促進		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	市内で働く勤労者の健康で豊かな働き方の実現を図ることを目的に、働きやすい職場づくり推進事業所認定制度を創設し、事業の周知・啓発を行ったところ、2事業所の認定を行うことができました。また、さらに取組を推進するため、新たなインセンティブを検討しました。 誰もが働きやすい活力ある地域づくりや働きやすい職場づくりの促進を図るため啓発セミナーを実施したところ、茨木市・高槻市・摂津市・吹田市・島本町が連携し開催している労働に関するセミナーでは参加者数が伸び悩みましたが、大阪府総合労働事務所、茨木労働基準協会と連携したセミナーでは定員を超える申込がありました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
雇用・労働関係セミナーの参加者数	人	↗	91	161	190(H32)

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-3	就労支援と働きやすい職場づくりをすすめる

４　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、１～３に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・社会的関心の高い働き方改革については、セミナー参加者が増加するなど、成果がうかがえる。 ・働き方の選択肢を増やす取組とその成果についてが見えない。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-4	地域特性をいかした都市づくりを計画的にすすめる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	広域的な都市基盤施設の充実を図るとともに、計画的な市街地整備や地域特性をいかした土地利用の誘導を図り、強み(ポテンシャル)をいかした整備を推進します。また、住、働、学、憩という都市において行われる機能を備えた都市づくりを進め、活力と魅力の増進に取り組みます。	

4	評価者等		部　名	補職名・課名	氏　名
		評価者（部長級）	都市整備部	部　長	岸田茂樹
		施策主担当課	都市整備部	都市政策課	―
		施策関係課	商工労政課、審査指導課、北部整備推進課、市街地新生課、道路交通課、下水道施設課		

5	施策内の取組（★：重点プラン該当取組）	5-4-1	計画的な都市基盤整備や市街地整備
		5-4-2	★彩都の都市づくり
		5-4-3	適切な開発や建築物・土地利用の誘導

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

	評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	H29年度末現在の施策の主な課題	
2	平成29年度は、東芝工場跡地でのスマートコミュニティの事業実施に向け、「東芝工場跡地」において用途地域や地区計画などの都市計画変更等を行いました。 本市南部地域の広域幹線沿道の市街化調整区域において、南目垣・東野々宮地区については、土地区画整理準備組合が検討を進めるまちづくりの取組を支援し、業務代行予定者を選定されたことから、平成30年度末の区域区分等の都市計画変更等に向け、関係機関との協議を進めました。 平田・玉島・野々宮地区については、3地区での事業化検討を断念され、各地区での検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められております。また、国道171号沿線の豊川・宿川原地区については、将来の地域のあり方について、議論されています。 彩都西部地区は、平成29年度末現在、約8,600人の方が居住し、またライフサイエンスパーク全区画で施設の立地が決定しており、彩都バイオイノベーション施設（彩都バイオインキュベータ、彩都バイオヒルズセンター、彩都バイオイノベーションセンター）の入居率は、年間を通じてほぼ100％の状況で稼動しています。また、中部地区では、新たに大型物流施設1施設が稼動するなど企業立地が進んでいます。 東部地区の2地区の先行エリアでは、民間事業者による土地区画整理事業が進められており、本市では、山麓線4工区（府道余野茨木線～府道茨木亀岡線間）と谷山水路の整備を進めています。残りのエリアについては、地権者で構成する「彩都東部地区地権者協議会」において「彩都東部地区全体開発計画案」が策定され、この全体計画案を基に先行整備予定地区の土地区画整理準備組合の立ち上げに向けた取組みを進めています。 開発指導要綱に基づく指導や都市計画制度等の活用により、市街化調整区域における無秩序な市街地の拡大を抑制するとともに、市街化区域においては良好な生活環境の整備に努めるなど、適切な土地利用の誘導を図っています。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。	課題①	都市計画変更にあたっては関係者の理解が必要です。
		課題②	広域幹線沿道の市街化調整区域では、事業化への合意形成や進出事業の目処が立っていない地域もあります。
		課題③	彩都東部地区地権者協議会で策定された「全体開発計画案」において示されている、先行整備予定地区の地権者の合意形成や具体的な土地利用計画の検討など、区画整理事業の実現に向けた取組みを進める必要があります。
		課題④	彩都バイオイノベーション施設の入居者が、新たに彩都地区をはじめ、市内に拠点を置き、円滑な企業活動が行えるよう、支援に努める必要があります。
		課題⑤	細街路計画に沿った整備については、法的な強制力が無いため、開発者等に協力を得ることができない場合があります。

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-4	地域特性をいかした都市づくりを計画的にすすめる

3　施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-4-1	計画的な都市基盤整備や市街地整備				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課	市街地新生課					
4	目　標 （前期基本計画より）	関係機関や事業者と連携し、広域的観点から都市づくりに取り組んでいます。 また、地域の実情に応じて、適宜適切に土地利用制度が見直され、時代の変化に対応した計画的な市街地整備が進められています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	該当なし		内容			

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	東芝工場跡地でのスマートコミュニティの事業実施に向け、「東芝工場跡地」において用途地域や地区計画などの都市計画変更等を行いました。 本市南部地域の広域幹線沿道の市街化調整区域において、南目垣・東野々宮地区については、土地区画整理準備組合が検討を進めるまちづくりの取組を支援し、業務代行予定者を選定されたことから、平成30年度末の区域区分等の都市計画変更等に向け、関係機関との協議を進めました。 平田・玉島・野々宮地区については、3地区での事業化検討を断念され、各地区での検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められておりますが、平田・玉島地区は、検討・合意形成が進んでいない状態です。 また、国道171号沿線の豊川・宿川原地区については、将来の地域のあり方について、議論されています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）

1	取　組	5-4-2	★彩都の都市づくり				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	北部整備推進課	課長名	岡田　直司
3	関係課	商工労政課、道路交通課、下水道施設課					
4	目　標 （前期基本計画より）	東部地区の都市づくりについては、民間の活力等を活用しながら段階的に進められています。 西部・中部地区では良好な住環境等の維持形成と企業等の誘致が進められています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる （雇用機会の拡大と経済活性化）		内容	国土軸へのアクセスなど地域特性をいかした企業等の誘致促進		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	西部地区「は、平成29年度末現在、約8,600人の方が居住し、またライフサイエンスパーク全区画で施設の立地が決定しており、彩都バイオイノベーション施設（彩都バイオインキュベータ、彩都バイオヒルズセンター、彩都バイオイノベーションセンター）の入居率は、年間を通じてほぼ100％の状況で稼動しています。また、中部地区では、新たに大型物流施設1施設が稼動するなど企業立地が進んでいます。 東部地区の2地区の先行エリアでは、民間事業者による土地区画整理事業が進められており、本市では、山麓線4工区（府道余野茨木線～府道茨木亀岡線間）と谷山水路の整備を進めています。残りのエリアについては、地権者で構成する「彩都東部地区地権者協議会」において「彩都東部地区全体開発計画案」が策定され、この全体計画案を基に先行整備予定地区の土地区画整理準備組合の立ち上げに向けた取組みを進めています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
彩都地区内の人口	人	↗	8,190	8,607	増加（H31）
彩都内の進出施設数	施設	↗	27	29	増加（H31）

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-4	地域特性をいかした都市づくりを計画的にすすめる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-4-3	適切な開発や建築物・土地利用の誘導				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課	審査指導課					
4	目　標 （前期基本計画より）	地域の土地利用形態の変化を見通した適宜適切な土地利用誘導や開発指導により、良好な生活環境や企業の操業環境の形成が進められています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	該当なし		内容			

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	開発指導要綱に基づく指導や都市計画制度等の活用により、市街化調整区域における無秩序な市街地の拡大を抑制するとともに、市街化区域においては良好な生活環境の整備に努めるなど、適切な土地利用の誘導を図っています。 なお、「東芝工場跡地」においては、用途地域や地区計画などの都市計画変更等を行い、「南目垣・東野々宮」においては、平成30年度の区域区分等の都市計画変更等に向け、関係機関との協議を進めました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
都市計画決定及び変更等案件	件	→	2	4	
開発行為等連絡協議会の開催	回	→	4	2	
細街路計画に沿った道路の整備件数の割合	%	↗	74	65	90(H30)

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・面的整備は時間を要するが、いずれの地区においても一定の進捗があり、評価できる

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-5	良好で住みよい環境・景観づくりをすすめる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	市民、事業者等による開発や施設の管理が良好な環境を形成することを基本に、住みよいまちを創るため、計画の共有、ルールの作成、適正な運用と適時適切な見直し、住民への支援などを行い、快適な住環境や美しい街並みが魅力的で将来にわたり住み続けたいまちをめざします。 また、緑地の適正な保全と緑化を推進し、自然とのふれあいやみどりをいかしたうるおいのある環境づくりをめざします。	

4	評価者等		部　名	補職名・課名	氏　名
		評価者（部長級）	都市整備部	部　長	岸田茂樹
		施策主担当課	都市整備部	都市政策課	―
		施策関係課	農とみどり推進課、審査指導課、居住政策課、建築課、公園緑地課		

5	施策内の取組（★：重点プラン該当取組）		
		5-5-1	快適で良好な住環境の形成
		5-5-2	都市におけるみどりの形成
		5-5-3	★良好な景観の保全と創造
		5-5-4	良好な住宅ストックの形成
		5-5-5	公的住宅の改善・充実

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2	評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	H29年度末現在の施策の主な課題	
	平成29年度は、良好な住環境を創出するため、細街路の計画路線に接して計画される、開発許可、道路位置指定、建築行為等に対し、細街路計画に沿った整備の必要性について開発者等に十分説明し、協力を得て、用地費の補償、工事費等の補助を行い整備を進めました。 また、地区の特性に応じた魅力ある景観形成に努めるとともに、良好な居住環境を保全するため、景観条例及び景観計画に基づき、建築行為等について協議、指導等を行い、屋外広告物についても、府条例に基づき許可事務を行いました。 緑の基本計画で定めた目標や取り組み方針、施策に従い、緑の将来像の実現に向けて次の事業に取り組みました。 さくらまつりの事業展開については、観光部局等と課題等を整理し、継続した協議を行っています。また、元茨木川緑地の再整備については、関係各課と協議を行いました。 居住マスタープランの策定に向け、現状・課題整理や意向調査、分析を行いました。また、居住施策推進委員会を設置し、検討内容について意見を伺いました。 住まいの安全を確保するために住宅の耐震診断、耐震改修費用の補助を行い、耐震化率の向上に努めるとともに、マンションの良好な居住環境を確保するため、マンションの適正管理等に関する情報を分譲マンションセミナー等で、マンションの区分所有者等に周知・啓発を行いました。また、良好な住宅ストックを形成するため、長期優良住宅の認定を行いました。 市営住宅の耐震化については、二次耐震診断結果に基づき、耐震改修が必要となった7棟のうち平成28年度に3棟、平成29年度に4棟の耐震化及び長寿命化改善工事を実施し、全ての市営住宅の耐震化を実施し、来年度以降に向けて4棟の長寿命化改善設計を行いました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。	課題①	さくらまつり実施事業の新たな事業展開について検討する必要があります。
		課題②	魅力ある景観づくりに向け、具体的な方策等を検討が必要です。
		課題③	居住マスタープランにおける住宅・住環境に係る施策の検討にあたっては、庁内各部署の課題を共有し、横断的に取り組む体制を構築する必要がある。
		課題④	厳しい財政状況のもと、、維持管理コストの縮減につなげるため、ストックの長寿命化を図る必要があります。
		課題⑤	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-5	良好で住みよい環境・景観づくりをすすめる

3　施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-5-1	快適で良好な住環境の形成				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	審査指導課	課長名	太田　薫
3	関係課	都市政策課					
4	目　標（前期基本計画より）	市民・事業者・行政の協働により、住環境の保全と向上が図られています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	良好な住環境を創出するため、細街路の計画路線に接して計画される、開発許可、道路位置指定、建築行為等に対し、細街路計画に沿った整備の必要性について開発者等に十分説明し、協力を得て、用地費の補償、工事費等の補助を行い整備を進めました。 また、「東芝工場跡地」において、スマートコミュニティの考え方に基づく都市づくりを促進するため、地区計画の内容について協議し都市計画決定を行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
細街路計画に沿った道路の整備件数の割合	%	↗	74	65	90(H30)

1	取　組	5-5-2	都市におけるみどりの形成				
2	主担当課	部名	建設部	課名	公園緑地課	課長名	古谷　裕二
3	関係課	農とみどり推進課					
4	目　標（前期基本計画より）	都市における緑空間の再整備や充実が進み、市民の利用を促進できる都市空間が形成されています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	緑の基本計画で定めた目標や取り組み方針、施策に従い、緑の将来像の実現に向けて次の事業に取り組んで参りました。 さくらまつりの事業展開については、観光部局等と課題等を整理し、継続した協議を行っています。 若園公園バラ園の苗木更新等を進めました。 公園施設については、長寿命化計画に沿って5公園の遊具等の更新を行いました。 元茨木川緑地の再整備については、関係各課と協議を行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
長寿命化計画に基づき老朽化した遊戯施設の更新等、再整備を行なった公園の割合	%	↗	19	37.5	100(H31)
若園公園バラ園の再整備を行った面積の割合	%	↗	25	50	100(H31)

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-5	良好で住みよい環境・景観づくりをすすめる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-5-3	★良好な景観の保全と創造				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課	審査指導課					
4	目　標（前期基本計画より）	市民・事業者・行政の協働により、美しい景観は市民共通の財産として、創る・守る・育てるという意識の共有と実践が進んでいます。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（まちなか空間の活性化）		内容	JR茨木、阪急茨木市駅周辺において、市の顔にふさわしい良好な景観の誘導		

6 H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	地区の特性に応じた魅力ある景観形成に努めるとともに、良好な居住環境等を保全・育成するため、景観条例及び景観計画に基づき、建築行為等について協議、指導等を行いました。 また、屋外広告物についても、府条例に基づき許可事務を行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
景観条例に基づく届出受付件数	件	→	107	99	
屋外広告物の設置申請件数	件	→	296	331	

1	取　組	5-5-4	良好な住宅ストックの形成				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	居住政策課	課長名	長谷川　善久
3	関係課	審査指導課					
4	目　標（前期基本計画より）	良好な住宅が供給され、市民の居住環境が向上しています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6 H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	居住マスタープランの策定に向け、現状・課題整理や意向調査、分析を行いました。また、居住施策推進委員会を設置し、検討内容について意見を伺いました。 住まいの安全を確保するために住宅の耐震診断、耐震改修費用の補助を行い、耐震化率の向上に努めました。 マンションの良好な居住環境を確保するため、マンションの適正管理等に関する情報を分譲マンションセミナー等で、マンションの区分所有者等に周知・啓発を行いました。 良好な住宅ストックを形成するため、長期優良住宅の認定を行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
分譲マンションセミナー	回	→	2	2	2
認定長期優良住宅の戸数（累計）	戸	↗	1,993	2,248	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-5	良好で住みよい環境・景観づくりをすすめる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-5-5	公的住宅の改善・充実				
2	主担当課	部名	建設部	課名	建築課	課長名	辻　俊昭
3	関係課						
4	目　標（前期基本計画より）	公的住宅の改善・充実が図られています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		a a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	市営住宅の耐震化については、二次耐震診断結果に基づき、耐震改修が必要となった7棟のうち平成28年度に3棟、平成29年度に4棟の耐震化及び長寿命化改善工事を実施し、全ての市営住宅の耐震化を実施しました。 来年度以降に向けて4棟の長寿命化改善設計を行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
市営住宅の耐震化及び長寿命化改善が完了した住棟の割合	%	↗	16.7	38.89	100（H34）

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・「緑空間の再整備」は一定の進捗はみられるものの、目標の100％には遠く、より一層の整備が求められる。 ・耐震化については一定成果はみられるものの、平成30年6月の大阪北部地震の被害をみると今後より一層の推進が必要である。 ・景観については、アウトカム評価の工夫が必要である。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-6	時代と市民の期待・要請に応え活力みなぎる都市づくりをすすめる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	将来にわたって住み続けたい、さらに活力ある都市として成長・発展させていくという視点から都市構造を捉え、生活を支える都市機能を維持・向上させるとともに、中心部における魅力ある地域、拠点への再生、北部地域をはじめとする豊かな文化、自然資源等をいかし効果を高める取組などにより、これからの時代を先導する活力あるまちづくりを進めます。	

		部　名	補職名・課名	氏　名
4	評価者等	評価者（部長級）	都市整備部	部　長	岸田茂樹
		施策主担当課	都市整備部	都市政策課	―
		施策関係課	市民会館跡地活用推進課、商工労政課、市街地新生課、北部整備推進課、道路交通課、公園緑地課、歴史文化財課		

5	施策内の取組（★：重点プラン該当取組）	5-6-1	★生活を支える拠点の整備・充実（拠点の配置とネットワークの維持・増進）
		5-6-2	★魅力ある中心市街地・駅周辺の整備
		5-6-3	（仮称）JR総持寺駅を活かした都市づくり
		5-6-4	★北部地域の魅力向上

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2 評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）

平成29年度においては、阪急茨木市駅西口駅前周辺整備では、再整備に向けた関係者協議を行っています。また、JR茨木駅西口駅前周辺整備では、関係権利者による再整備に向けた勉強会を行い協議会組織が立ち上がりました。

立地適正化計画の策定に向け、居住を誘導する「居住誘導区域」及び必要な都市機能を誘導する「都市機能誘導区域」等を検討しました。

中心市街地の活性化を図るため、取組を進めている「中心市街地活性化基本計画」の策定において「中心市街地活性化協議会」を開催し、中心市街地の課題や課題を解決する事業、事業効果を図る指標について議論・検討を行うとともに、にぎわい空間の創出を中心市街地全体に広げ、今後の公共空間のあり方を考えるため「場を開く社会実験」を実施し、活動を実施する新たなプレーヤーの発掘と事業の掘り起しに努めました。

「市民会館100人会議」での意見や、市民会館跡地活用検討委員会での審議を踏まえ、コンセプトや敷地等を検討した「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」を策定しました。

JR総持寺駅の開業に合せ、駅前広場・周辺道路・駐輪場等関連公共施設が整備されました。また、阪急総持寺駅西口駅前広場について、事業用地取得や関係者協議、広場の基本設計業務に取り組むとともに、JR・阪急両駅間を繋ぐ総持寺駅前線の道路整備を進めました。

北部地域を暮らしの場、活動の場、憩いの場として維持・発展させるための話し合いを継続的に地域住民・団体等と行っています。

北部地域の拠点の一つとなる安威川ダム周辺整備の事業化に向けた取組を進めるとともに、関係者と連携のうえ、自転車を切り口とした「いばきた」を体験できる機会の提供や、新名神高速道路を資源としたウォーキングイベント等の実施を通じて、北部地域の魅力発信を行いました。

また、ガイドブック「いばきた」の改訂、千提寺菱ヶ谷遺跡の市民開放を行うほか、キリシタン散策ルートの寺山・クルス山等に文化財説明案内板を設置するなど様々な取組により、継続的に情報発信に努めています。

以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。

H29年度末現在の施策の主な課題

課題①	両西口駅前周辺整備について、関係者協議を進め、人が集い活動できる場を意識したものとなるよう再整備計画の検討を進める必要があります。
課題②	中心市街地の魅力を向上させる効果的な事業を精査するとともに、推進体制の検討を進める必要があります。
課題③	市民会館跡地エリアでは、南北軸、東西軸の交点という立地性を踏まえつつ、キーコンセプトである「育てる広場」の実現に向けた取組を進める必要があります。
課題④	JR総持寺駅を中心とした賑わい創出に向けた関係者との調整が必要です。
課題⑤	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-6	時代と市民の期待・要請に応え活力みなぎる都市づくりをすすめる

3　施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-6-1	★生活を支える拠点の整備・充実（拠点の配置とネットワークの維持・増進）				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課	市街地新生課					
4	目　標（前期基本計画より）	公共交通の結節点となる市の都市拠点や地域拠点、生活拠点の整備により、都市機能が維持・増進され、地域の生活環境が向上しています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（まちなか空間の活性化）		内容	駅や駅周辺等の整備		

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	阪急茨木市駅西口駅前周辺整備では、再整備に向けた関係者協議を行っています。JR茨木駅西口駅前周辺整備では、関係権利者による再整備に向けた勉強会を行い協議会組織が立ち上がりました。 立地適正化計画の策定に向け、居住を誘導する「居住誘導区域」及び必要な都市機能を誘導する「都市機能誘導区域」等を検討しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	

1	取　組	5-6-2	★魅力ある中心市街地・駅周辺の整備				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	市街地新生課	課長名	福田　文彦
3	関係課	市民会館跡地活用推進課、商工労政課、都市政策課、市街地新生課、道路交通課					
4	目　標（前期基本計画より）	駅周辺や中心商業地区の再整備が進み、人々が楽しく散策し、集う活気あふれる空間となっています。 起業家への支援などにより、魅力的な商店等が生まれています。さらに、市民や市民活動団体等の協働による活動が実を結び、中心市街地に賑わいが生まれています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（まちなか空間の活性化）		内容	中心市街地活性化基本計画の策定（協議会の設立）、 駅周辺地区の再生の促進、 多様な機能を持つにぎわい拠点の整備、 シビックセンター環状道路の一方通行化の推進		

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	中心市街地の活性化を図るため、取組を進めている「中心市街地活性化基本計画」の策定において「中心市街地活性化協議会」を開催し、中心市街地の課題や課題を解決する事業、事業効果を図る指標について議論・検討を行うとともに、にぎわい空間の創出を中心市街地全体に広げ、今後の公共空間のあり方を考えるため「場を開く社会実験」を実施し、活動を実施する新たなプレーヤーの発掘と事業の掘り起しに努めました。 創業や小売店舗等の改装に係る補助制度を活用した、店舗のリニューアルや新規開店が促進されました。 「市民会館100人会議」での意見や、市民会館跡地活用検討委員会での審議を踏まえ、コンセプトや敷地等を検討した「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」を策定しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
JR茨木駅の乗降客数	人/日	↗	97,252	－	93,182(H35)
阪急茨木市駅の乗降客数	人/日	↗	72,501	－	70,764(H35)

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-6	時代と市民の期待・要請に応え活力みなぎる都市づくりをすすめる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-6-3	（仮称）JR総持寺駅を活かした都市づくり				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	市街地新生課	課長名	福田　文彦
3	関係課	道路交通課					
4	目　標（前期基本計画より）	JR総持寺駅が開業することで、まちの新たな拠点が誕生し、同駅や阪急総持寺駅周辺地域の活性化が図られています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	JR総持寺駅の開業に合せ、駅前広場・周辺道路・駐輪場等関連公共施設が整備されました。阪急総持寺駅西口駅前広場について、事業用地取得や関係者協議、広場の基本設計業務に取り組むとともに、JR・阪急両駅間を繋ぐ総持寺駅前線の道路整備が進んでいます。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
庄一丁目地区地区計画区域内の人口	人	↗	1,141	1,214	1,900(H32)
JR京都線・五反田橋梁桁下を通行する大型車通行台数(台/12h)	台	↗	－	－	947(H30)

1	取　組	5-6-4	★北部地域の魅力向上				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	北部整備推進課	課長名	岡田　直司
3	関係課	道路交通課、公園緑地課、歴史文化財課					
4	目　標（前期基本計画より）	北部地域が良好な住環境と観光資源を備えた魅力ある地域として整備され、多くの来訪者との交流が増え、活性化が図られています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（北部地域の活性化）		内容	北部地域の豊かな自然・歴史・田園環境の保全・活用、安威川ダムや新名神周辺整備にあわせた魅力ある施設・空間の創出		

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		a a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	北部地域を暮らしの場、活動の場、憩いの場として維持・発展させるための話し合いを継続的に地域住民・団体等と行っています。 北部地域の拠点の一つとなる安威川ダム周辺整備の事業化に向けた取組を進めるとともに、関係者と連携のうえ、自転車を切り口とした「いばきた」を体験できる機会の提供や、新名神高速道路を資源としたウォーキングイベント等の実施を通じて、北部地域の魅力発信を行いました。 また、ガイドブック「いばきた」の改訂、千提寺菱ヶ谷遺跡の市民開放を行うほか、キリシタン散策ルートの寺山・クルス山等に文化財説明案内板を設置するなど様々な取組により、継続的に情報発信に努めています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
北部地域における交流人口	人	↗	179,691	169,410	増加（H31）

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-6	時代と市民の期待・要請に応え活力みなぎる都市づくりをすすめる

４　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、１～３に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・社会実験等により協働によるユニークな取組が増えていることは評価できる。 ・魅力ある中心市街地の整備では、「起業家への支援などにより、魅力的な商店等が生まれています」という目標に対するアウトカム評価が不十分である。 ・北部地域の魅力向上について、さまざまな取組を展開していることは評価できるが、交流人口が伸び悩んでおり、成果へ向けての工夫が求められる。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	限られた資源を有効に活用し、地域内で循環する省エネルギー型の都市をめざすとともに、誰にもやさしい福祉のまちづくりや、既存のストックの活用や施設の長寿命化などを進めていきます。これにより、将来にわたって住み続けることができるまちをめざします。 今後も増加すると懸念される空き家については、所有者への働きかけを行うほか、まちづくりへの活用をめざします。	

		部　名	補職名・課名	氏　名
4 評価者等	評価者（部長級）	都市整備部	部　長	岸田茂樹
	施策主担当課	都市整備部	都市政策課	―
	施策関係課	地域福祉課、居住政策課、審査指導課、道路交通課		

5 施策内の取組（★：重点プラン該当取組）	5-7-1	環境負荷の低減
	5-7-2	★誰にも優しいまちづくりの推進
	5-7-3	危険家屋・老朽マンション対策
	5-7-4	都市計画施設の見直し

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2 評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）

平成29年度には、東芝工場跡地でのスマートコミュニティの実現に向け、関係者と協議を行いました。また、都市の低炭素化の促進に寄与する低炭素建築物新築等計画の認定を行いました。

大阪府福祉のまちづくり条例に基づく基準適合努力義務対象建築物について、バリアフリーに配慮された建築物となるように事業者との協議を行い、整備がなされました。また、バリアフリー基本構想及び特定事業計画に基づき、重点整備地区内の生活関連経路のバリアフリー化に取り組みました。

平成30年3月に策定した総合保健福祉計画にバリアフリーの推進に関する項目を記載しました。

空家の活用を促進するため、空家所有者、活用希望者を対象としたセミナーや相談会を開催しました。

特定空家に対する措置を行うために「空家等の適切な管理に関する条例」を制定しました。また、適正に維持保全されていない建築物の所有者等に対し、適正な状態に管理するよう指導しました。

新たに都市計画決定された、阪急総持寺駅西口駅前交通広場の地権者に対し駅前交通広場の必要性について丁寧な説明を行っています。また、周辺住民の意見を踏まえ、駅前交通広場の整備内容等について検討を行っています。

以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。

H29年度末現在の施策の主な課題

課題①	大規模開発において、環境負荷の低減に向けた取り組みが必要です。
課題②	努力義務対象建築物の建築主に対して、施設のバリアフリー化の必要性について、事前協議を通じて理解を深めていただく必要があります。
課題③	空家所有者の意識が低く、情報や知識が不足しています。また、指導の対応としては、相手方への協力依頼が大半であり、所有者が特定できない場合や、特定できても意思や能力が無い場合、適正管理の実現性が低くなります。
課題④	阪急総持寺駅西口駅前交通広場の整備については、地権者へ事業に対する理解を求める必要があります。
課題⑤	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる

3　施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-7-1	環境負荷の低減				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課	審査指導課					
4	目　標 （前期基本計画より）	市民一人ひとりが環境保全に対する高い意識を持ち、環境負荷の低減に努めるとともに、各主体の協働により、スマートコミュニティや低炭素化社会の実現に向けた取組が進められています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	該当なし		内容			

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	東芝工場跡地でのスマートコミュニティの実現に向け、関係者と協議を行いました。また、都市の低炭素化の促進に寄与する低炭素建築物新築等計画の認定を3件行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
低炭素建築物新築等計画の認定数（累計）	件	↗	34	37	

1	取　組	5-7-2	★誰にも優しいまちづくりの推進				
2	主担当課	部名	建設部	課名	道路交通課	課長名	藤田　憲文
3	関係課	審査指導課・地域福祉課					
4	目　標 （前期基本計画より）	市民や市を訪れるすべての人が安全で快適に利用できるよう、公共施設や歩行者経路等のバリアフリー化を実施するとともに、判りやすく利用しやすい公共空間となるようユニバーサルデザインの導入が進んでいます。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（まちなか空間の活性化）		内容	駅周辺のバリアフリーの推進		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	大阪府福祉のまちづくり条例に基づく基準適合努力義務対象建築物について、バリアフリーに配慮された建築物となるように事業者との協議を行い、整備がなされました。 バリアフリー基本構想及び特定事業計画に基づき、重点整備地区内の生活関連経路のバリアフリー化に取り組みました。 平成30年3月に策定した総合保健福祉計画にバリアフリーの推進に関する項目を記載しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
道路特定事業（生活関連経路）整備路線数	路線	↗	14	17 （H30継	33（H32）

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-7-3	危険家屋・老朽マンション対策				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	居住政策課	課長名	長谷川　善久
3	関係課	審査指導課					
4	目　標 （前期基本計画より）	老朽化した建築物への適切な対応による安全性の確保や、既存ストックを活用したまちづくりが進んでいます。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	該当なし		内容			

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	空家の活用を促進するため、空家所有者、活用希望者を対象としたセミナーや相談会を開催しました。 特定空家に対する措置を行うために「空家等の適切な管理に関する条例」を制定しました。 適正に維持保全されていない建築物の所有者等に対し、適正な状態に管理するよう指導しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	

1	取　組	5-7-4	都市計画施設の見直し				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課						
4	目　標 （前期基本計画より）	都市計画施設の整備を計画的に進めるとともに、必要性・実現性等の観点から適宜見直しが行われています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	該当なし		内容			

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	新たに都市計画決定された阪急総持寺駅西口駅前交通広場の地権者に対し、駅前交通広場の必要性について丁寧な説明を行っています。また、周辺住民の意見を踏まえ、駅前交通広場の整備内容等について検討を行っています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる

４　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、１～３に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・空家活用などストック活用の取組は始まったばかりであり、今後の成果に期待する。 ・スマートコミュニティや低炭素化社会の実現については、モデル地区での取組は進んでいるが、目標は既成市街地や市民全体への展開であり、方策検討の必要がある。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-8	暮らしと産業を支える交通を充実させる
3	施策の方向性（前期基本計画より）	国土軸に位置する優位性をさらにいかしていくとともに、平成25年度に策定した総合交通戦略に基づき、「住みやすい・移動しやすい」まちづくりのため、道路ネットワークの充実と強化、公共交通の利用促進や歩行者・自転車空間の安全性の向上等の総合的な交通施策を進めます。	

4	評価者等		部　名	補職名・課名	氏　名
		評価者（部長級）	建設部	部　長	鎌谷博人
		施策主担当課	建設部	道路交通課	―
		施策関係課	都市政策課、北部整備推進課、建設管理課		

5	施策内の取組（★：重点プラン該当取組）		
		5-8-1	★公共交通の維持・充実
		5-8-2	★道路整備の推進
		5-8-3	駐車場・駐輪場の充実
		5-8-4	歩行者、自転車利用環境の整備
		5-8-5	★交通安全対策の推進

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2	評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	H29年度末現在の施策の主な課題	
	主要な公共交通手段である路線バスの利便性向上・利用促進を図るため、市内のバス路線情報が集約された公共交通マップの作成を行いました。 茨木松ケ本線のアンダーパス開通等、都市計画道路を含む、主要道路の道路改良工事を実施し、歩行者・自転車等の通行の安全や交通渋滞対策等、円滑で安全な交通の確保に努めました。 また、平成30年春に開業したJR総持寺駅の周辺部では、都市機能の充実強化を図るため、周辺道路の整備を進めました。 新名神関連事業では、インターチェンジへのアクセス道路となる泉原千提寺線（1工区）の整備を完了しました。橋梁については、耐震補強及び修繕工事を順次、実施しました。 JR総持寺駅の開業に合わせ、茨木市JR総持寺駅南自転車駐車場、同北自転車駐車場を整備し、供用を開始しました。 また、西駅前自転車駐車場の修繕を実施した他、駐車場施設の修繕基本計画を策定しました。 自転車レーンの整備については、茨木市自転車利用環境整備計画に位置付けられた優先整備対象路線を中心に整備を行い、路線全体では47％が完成しました。	課題①	山間部や市街地の利用者の少ない路線で減便等の運行変更が行われ、バスの利便性が低下しています。また、運転免許証自主返納後の高齢者の移動支援が求められています。
		課題②	駅前周辺や幹線道路において、渋滞が発生しています。また、道路拡幅による渋滞解消も、用地交渉の難航等で整備が進みません。橋梁長寿命化修繕計画も、限られた予算内での執行では予算の平準化は図れていません。
		課題③	策定した駐車場施設の修繕基本計画を基に修繕実施計画を作成し、適切な維持管理を実施していく必要があります。
		課題④	自転車ネットワーク路線では、幅員が狭い道路での自転車通行空間の整備が困難となっています。また、それ以外の生活道路等では自転車レーン等の安全対策が不足しています。
		課題⑤	交通ルールに関する知識が正しく理解されていないことから、事故が発生しています。特にルール遵守意識の低さ等から、高齢者の事故が全体に占める割合が高くなっています。

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-8	暮らしと産業を支える交通を充実させる

3　施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取　組	5-8-1	★公共交通の維持・充実				
2	主担当課	部名	建設部	課名	道路交通課	課長名	藤田　憲文
3	関係課	都市政策課					
4	目　標 （前期基本計画より）	市内ではバス路線網が維持され、多くの人が利用しています。また、タクシーは、路線バスを利用できない交通弱者やさまざまな利用者のニーズに応えるなど、多様なサービスが提供されています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（まちなか空間の活性化）		内容	公共交通の利用促進をはじめとする、交通環境の整備		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ	総合交通戦略で策定した短・中期施策の実施及び関係事業者と共に施策の進行管理を行った。 総合交通戦略に基づき、移動に関する実態調査や公共交通に対するニーズ調査を行い、公共交通の利便性向上に向けた諸施策の検討を行った。 主要な公共交通手段である路線バスの利便性向上・利用促進を図るため、市内のバス路線情報が集約された公共交通マップの作成を行った。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
バス利用者数	人／日	→	25519	集計中	24,700（H35）
市内の移動に対する満足度（平成24年の実績は49.8）	%	↗	－	－	55（H35）
鉄道施設耐震補強済箇所数	箇所	↗	8	－	8（H28）

1	取　組	5-8-2	★道路整備の推進				
2	主担当課	部名	建設部	課名	道路交通課	課長名	藤田　憲文
3	関係課	北部整備推進課					
4	目　標 （前期基本計画より）	市中心部への通過交通の流入を抑制するとともに、市内幹線道路網の整備推進により、市内交通が円滑になるよう道路整備が進んでいます。また防災空間としての役割にも配慮されています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	③安全・安心に暮らせるまちをつくる		内容	災害時に防災空間ともなる道路の整備		

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ	市内の都市計画道路を含む主要道路の道路改良工事を実施し、歩行者、自転車等の通行の安全や交通渋滞の解消等、円滑で安全な交通の確保に努めました。 茨木松ヶ本線についてはJRのアンダーパスの工事が完了し、府道大阪高槻京都線と接続しました。 JR総持寺駅の周辺部については、都市機能の充実強化を図るために、駅前の周辺道路等の整備を進めております。 新名神関連事業ではインターチェンジへのアクセス道路となる泉原千提寺線（1工区）について、整備が完了しました。 橋梁については耐震補強及び修繕工事を実施しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 H28年度	実績値 H29年度	目標値（年度）
都市計画道路（市施工）の整備率	%	↗	80	81	84.5(H31)
耐震・補強済みの橋梁数	橋	→	18	19	19（H29）
維持補修済みの橋梁数	橋	↗	27	33	48（H31）

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-8	暮らしと産業を支える交通を充実させる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-8-3	駐車場・駐輪場の充実				
2	主担当課	部名	建設部	課名	建設管理課	課長名	中田　弘之
3	関係課						
4	目　標（前期基本計画より）	交通の状況や地域の特性に応じた駐車場・駐輪場の整備が進んでいます。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	平成30年3月1日よりJR総持寺駅南自転車駐車場とJR総持寺駅北自転車駐車場を開設、運営しています。平成28年度に行った西駅前町自転車駐車場の設計委託に基づき修繕を実施しました。駐車場施設の5年間(平成30年度～平成34年度)の修繕基本計画を策定しました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	

1	取　組	5-8-4	歩行者、自転車利用環境の整備				
2	主担当課	部名	建設部	課名	道路交通課	課長名	藤田　憲文
3	関係課						
4	目　標（前期基本計画より）	歩行者、自転車、自動車の通行空間の分離などによる安全な歩行空間の確保が進むとともに、自転車利用環境の向上により、安全な歩行者、自転車通行が可能となっています。					
5	該当する重点プラン（前期基本計画より）	該当なし		内容			

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	自転車利用環境整備計画に位置付けられている自転車ネットワーク路線において、自転車レーンの整備を行いました。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
自転車関連事故件数（年単位で集計）	件/千人・年	↘	1.05	0.99	1.83（H36）
自転車の道路利用満足度（平成24年の実績は28.4）	%	↗	―	―	32.0（H36）
自転車ネットワーク路線整備率	%	↗	34	47	100（H36）

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-8	暮らしと産業を支える交通を充実させる

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-8-5	★交通安全対策の推進				
2	主担当課	部名	建設部	課名	道路交通課	課長名	藤田　憲文
3	関係課	建設管理課					
4	目　標 （前期基本計画より）	安全な道路環境の形成や市民の交通意識の高まりにより、事故の発生件数が減少し、安全かつ快適な通行が実現しています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	③安全・安心に暮らせるまちをつくる		内容	安全な道路環境の形成、 交通ルールの遵守や交通マナーの啓発		

6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	阪急茨木市駅等においては買い物客等の短時間利用の放置自転車が依然として多い状況であり、平成29年度も引続き駅前周辺の放置自転車等の啓発、指導、撤去等を実施した。 茨木警察署と共同で自転車のルール遵守・マナーの向上に対する街頭啓発の実施回数を増やした。 カーブミラー、安全柵、ガードレール、車止め、標識等の交通安全施設の修繕を行った。 通学路及び生活道路において、通学児童、高齢者、障がい者等歩行者の安全確保を図る歩道整備等を行った。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	
総人口に対する事故発生率（年単位で集計）	%	↘	0.3	0.3	0.5（H31）

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・茨木松ケ本線のアンダーパス開通等道路整備や公共交通の充実について進捗がみられ、評価できる。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-9	市民・民間によるまちづくりを促進する
3	施策の方向性（前期基本計画より）	まちづくりに関する知識の普及、情報の提供、まちづくり活動への支援を継続して進め、住民主体のまちづくりの促進に努めるだけでなく、民間事業者と協力して進める新しいまちづくりについても検討、推進し、本市の魅力と活力を発信していきます。	

			部　名	補職名・課名	氏　名
4	評価者等	評価者（部長級）	都市整備部	部　長	岸田　茂樹
		施策主担当課	都市整備部	都市政策課	―
		施策関係課	市街地新生課、審査指導課、道路交通課、北部整備推進課		

5	施策内の取組（★：重点プラン該当取組）	5-9-1	民間との連携、活力の活用
		5-9-2	市民による地域づくり

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

	評価理由（H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	H29年度末現在の施策の主な課題	
2	平成29年度は、安威川ダム周辺整備において、民間活力の導入を進めるため、事業参画意向を示す事業者とヒアリングを進めました。また、そのヒアリング結果を参考に、周辺整備のコンセプトや整備範囲、手法に関する「基本構想（案）」を作成しました。 にぎわい空間の創出を中心市街地全体に広げ、今後の公共空間の在り方を考えるため、その利活用を図る「場を開く社会実験」の実施により、多様な主体の参加による賑わい創出活動が生まれる等、一定の成果が上がってきています。 東芝工場跡地及びJR総持寺駅前でもエリアマネジメントの検討を進めています。 「いばらきまちづくりラボ」等を開催し、市民のまちづくり活動へ参加するきっかけづくりやまちづくりに関する知識の普及等に努めることで、市民のまちづくりへの関心が高まり、参加者同士の交流が生まれています。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。	課題①	基本構想を策定するために必要な関係者への説明や意見聴取が必要です。また、基本構想をベースとして、事業者公募に向けた準備を進める必要があります。
		課題②	公共施設や市民が利用できる施設について、関係部局や関係機関との連携が必要です。また、大規模開発等において、地域が主体となった将来の維持管理や運営等が可能となるよう、地域を育てる取組が必要です。
		課題③	東芝工場跡地でのスマートコミュニティ構想の実現に向け、将来の住民参画を視野に入れたエリアマネジメント組織設立のため、関係者協議が必要です。
		課題④	市民がまちづくり活動に参加できるよう、まちづくりに関するさらなる情報提供や具体的な取組につながるきっかけづくりが必要です。
		課題⑤	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-9	市民・民間によるまちづくりを促進する

3　施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取　組	5-9-1	民間との連携、活力の活用				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課	市街地新生課、審査指導課、道路交通課、北部整備推進課					
4	目　標 （前期基本計画より）	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるために、都市計画制度や民間活力等を活用したエリアマネジメントの取組が進み、地域の魅力が向上しています。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	該当なし		内容			

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	安威川ダム周辺整備において、民間活力の導入を進めるため、事業参画意向を示す事業者とヒアリングを進めました。また、そのヒアリング結果を参考に、周辺整備のコンセプトや整備範囲、手法に関する「基本構想（案）」を作成しました。 にぎわい空間の創出を中心市街地全体に広げ、今後の公共空間の在り方を考えるため、その利活用を図る「場を開く社会実験」の実施により、多様な主体の参加による賑わい創出活動が生まれる等、一定の成果が上がってきています。 東芝工場跡地及びJR総持寺駅前でもエリアマネジメントの検討を進めています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	

1	取　組	5-9-2	市民による地域づくり				
2	主担当課	部名	都市整備部	課名	都市政策課	課長名	福井　龍也
3	関係課						
4	目　標 （前期基本計画より）	地域における住民の主体的な活動を支援することにより、住民による地域づくりが進んでいます。					
5	該当する重点プラン （前期基本計画より）	該当なし		内容			

6　H29年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	「いばらきまちづくりラボ」等を開催し、まちづくりに関する知識の普及や市民のまちづくり活動へ参加するきっかけづくり等に努めることで、市民のまちづくりへの関心が高まり、参加者同士の交流が生まれています。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			H28年度	H29年度	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施　策	5-9	市民・民間によるまちづくりを促進する

４　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、１～３に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部　　久　隆浩　教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・社会実験等、協働でのまちづくりが進んできたことは評価できる。 ・「市民による地域づくり」は都市整備だけでなく、福祉や教育なども含めた総合的なものであり、分野横断的に地域支援を行っていく必要がある。